

巻頭言

クリスマスおめでとうございます

立教小学校チャプレン 小林 宏治

天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。あなたがたは、布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」(ルカによる福音書 2章 10 節から 12 節)

はじめに、一つ質問です。

わたしたちは、何故、クリスマスを喜び祝うのでしょうか。街の中では12月までにクリスマスの飾りつけがなされ、少し、華やかだ雰囲気があります。わたしは今回いろいろな人に、クリスマスについて質問をしました。そして、いくつかの答えをいただきました。「サンタクロースがやって来る日」、「プレゼントがもらえる」、「イエス様の誕生日」、「ケーキを食べる」、「おいしいごちそうを食べる」、「救い主がお生まれになった」などなど。確かに、クリスマスは喜びの時、お祝いの時です。おいしい食事をいただき、誰かからのプレゼントを受け取り、楽しい時間だと思えます。けれども、それだけではないのがクリスマスです。

この時期、日本は冬の季節です。とても寒いです。わたしたちのまわりを見渡せば、暗い話、やりきれない話、聞きたくない話、テレビや新聞でも暗く、悲しい、希望のないニュースが取り上げられます。今年は特に新型コロナウイルスの影響で、不安の中のクリスマスなのではないでしょうか。世の中すべての人にとって、クリスマスは喜びとなっているのでしょうか。わたしたちは、いつまでも、暗いままでいることに耐えられません。

誰もが、明るい光、希望を求めています。

約 2000 年前に示された希望

イエス様の時代、2000 年前もそうでした。イエス様がお生まれになった時も闇がこの世界を支配しているような、絶望的な時代でした。それだけにユダヤの人々は、強く神様の救いを待ち望んでいました。そのような人々を救うために、神様は救い主をこの世に遣わされました。それがイエス様でした。

最初のクリスマスは、赤ちゃんイエス様の誕生の時でした。特別に羊飼いたちに天使の声が届けられました。そして、彼らはお生まれになったイエス様に会いに行き、幼子を拝み、神様に感謝しました。

羊飼いにあって救い主に出会ったことは大きな喜びでした。羊飼いはこの世界の弱者、困難の中にある者の代表です。ユダヤの中で一番悲しい思いをしていた羊飼いが、誰よりも先に、救い主を見ることができたのです。彼らは大きな喜び、希望を与えられました。

羊飼いが経験した出来事は、どのような困難の中にある人にも、喜びの光が届けられるということを意味します。神様の救いは、イエス様を通して、すべての人に必ず届けられるのです。ゆえに、救い主の誕生をお祝いするクリスマスはうれしい喜びの日なのです。

